海外に翔いた子どもたちが

その翼を次へつなぐシンポジウム

第5回 Support Our Kidsリユニオン in 東北福祉大学

HABATAKI・翔

実施報告書





2016年11月 Support Our Kids実行委員会

開催趣旨/HABATAKIとは

【開催趣旨】

本日は、第5回 Support Our Kids リユニオン~翔(はばたき)~にご参加頂き、誠にありがとうございます。また、平素より弊会の活動に深いご理解とご厚情をいただいておりますことに感謝申し上げます。

皆様ご存知の通り、私共では、"東日本大震災被災児童の自立" "復興を担うリーダーの育成"を目的に、10 年間の継続プロジェクトとして「Support Our Kids」の活動に取り組んでおります。主たる活動は、世界の大使館や外務省のご理解とご協力のもと実施している「海外ホームステイを通した被災児の自立心育成活動」、そして「ホームステイの実施、プロジェクトの認知度向上を目的に開催している各種チャリティ活動」です。

昨年のデレク・ジーターさん、松井秀喜さんに続き、今年は3月にゲーリー・プレーヤーさんとエンヤさん、7月にダン・カーターさんがこの活動の為に来日。チャリティ活動を通し、ホームステイの実現に多大なるご協力を頂きました。

本日は、このように世界のセレブリティはじめ、多くの方々の温かいお気持ちに包まれ海外ホームステイを経験された52名の生徒の皆さんに「海外で何を見て、何に気づいたのか」発表して頂きます。また、OBOGの皆さんには、帰国後に取り組んでいる復興活動や、将来の夢についてお話頂きます。

さらに、「Support Our Kidsのテーマソングを書いたので皆さんに聴いて頂きたい」と申し出て頂いた有志の皆さんによるスペシャルライブも予定しております。

是非、最後までお楽しみいただけますと幸いです。

逆境を力に変えて、自分の可能性に、そして世界に向かって羽ばたく子ども達。

私共では、そんな子ども達ひとりひとりの背中を見守りながら、「ひとりじゃないよ」を合言葉に2020年まで活動を続けて参ります。

引き続き、皆様のご理解とご協力、何卒、宜しくお願い致します。

2016年11月13日 Support Our Kids実行委員会 名誉会長 イアン・ケネディ

(前駐日ニュージランド大使館 特命全権大使)

【HABATAKIとは】

2012年のリユニオンで、"この会を、子ども達の・子ども達による・子ども達の為の会に育てていきたい"という思いから、会の新名称を子ども達から募集。「私たちは、支援のおかげで"はばたく"ことができた。今後は、自分たちの力ではばたいて恩返しをしていきたい。」というNZ2期生伊藤早希さんの想いが共感を集め、本会名称が「リユニオン~翔・HABATAKI~」に決定!



概要/プログラム

【概要】

日 時:2016年11月13日(日)13:00~16:00

会 場:東北福祉大学 けやきホール

主 催: Support Our Kids実行委員会

共 催:東北福祉大学

参 加: **250名 (内、生徒105名)**



【プログラム】

12:30 開場・受付

13:00 開会 / 司会: 秋沢淳子(TBSアナウンサー)

・開会宣言 澤田 悠希(リユニオン2016実行委員会 実行委員長/USA2014)

・主催者代表挨拶 秋沢 志篤(Support Our Kids実行委員会 事務局長)



13:20 第1部 海外ホームステイ体験発表「海外ホームステイを経験して」

・Poland & Switzerland, Ireland, Canada, Australia, New Zealand, USA HOMESTAY参加生徒

14:45 第2部 HABATAKIシンポジウム「東北×ネパール&熊本 復興の輪プロジェクトを実施して」

・*HABATAKI*プロジェクトメンバー

15:15 第3部 OBOGインタビュー「私の夢」

・小野寺真礼(UK2012)、中津留裕人(UK2012)、半澤悠音(France2013)



15:30 第4部 HABATAKI SPECIAL LIVE

・佐藤玲花(Canada2014)、小野寺悠花(New Zealand2014)、須田日香理(New Zealand2015)

15:45 閉会

・閉会宣言 渡邊 朱莉(リユニオン2016実行委員会 副委員長 / Canada2015)

・記念写真撮影

16:30~18:00 懇親会(風土)



HABATAKIシンポジウム① 海外経験発表

計6グループによる、アイディア、独創性あふれるプレゼンテーション。帰国から3カ月。個人としてはもちろん、チームとしての成長も感じられる発表でした。



アウシュビッツ強制収容所では、戦争の無残な悲惨な 光景を目の当たりにし、心が痛んだし、なによりこの ような歴史を繰り返してはならないと思いました。日 本でも広島や長崎の原爆のように、同じようなことが あったので、僕たちができることはこれを後世に伝え ていくことだと実感しました。

僕たちのチーム名はtry forです。これからもSOKの活動等を通して、会場の皆様と一緒にさまざまなことに挑戦していきたいと思います。



私は帰国後、たくさんの人に「積極的になった、明るくなった」といった言葉をかけていただきました。そのきっかけとなったのがホストファミリーからの「自分からやらないと何も始まらないよ」という言葉です。実際に、自分から話しかけなければ何も始まりませんでした。そのようなことが積み重なって私たちは積極的になり、大きく成長を遂げることができたのだと思います。

今まで私たちの活動を支えてくださった支援者の皆様、このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。これからは、OG・OBの立場にたって積極的にSOKの活動に参加し、恩返しをしていきたいと思います。



今回私たちは2週間の海外派遣プログラムに参加し、自らの震災の経験や日本の文化を発信するという機会と共に、さまざまな意見や考え方を知る機会もたくさんありました。カナダの方に温かく歓迎してもらい、たくさんの愛と多くの優しさを感じ、次は私たちが誰かのために役立つことをしたいとここにいるメンバー全員が強く思うようになりました。積極的に何事にもチャレンジできるようになった今、カナダでお世話になった全ての人に感謝をし、今後は、今回得た多種多様な価値観を自分たちの中で消化・吸収し、発信していこうと思います。

HABATAKIシンポジウム① 海外経験発表

「海外ホームステイを体験して」をテーマに、異文化に触れた驚き、喜び、悔しさ、 そして支援への感謝などを共有しました。



オーストラリアでは、様々な人種の人が生活をしていました。メンバーそれぞれがオーストラリアの多民族性や様々な文化を尊重する心に触れながら生活をすることができました。

このプログラムに参加してから、さまざまな人と関わるようになりました。震災を経験して大切な人を失った悲しみから、自分の心をちゃんと開けずに話すことができずにいました。しかし、自分と同じ経験をした人たちと関わりながらもう一度震災と向き合うことで、悲しい過去を辛い過去ではなく、ひとつの転機として捉えることができるようになりました。



自分の可能性がこんなにも広かったんだ、とホームステイ中に感じました。ニュージーランドから帰ってきて約3ヵ月が経ちましたが、以前の私からは考えられないほど積極性が増したと思います。日本の当たり前が通じない生活に喰らいついていくうちに、様々なことを吸収し、自分が閉ざしていた価値観や固定観念の殻が破れていくのを感じました。そして、それが今の私の自信となっています。また、常に切磋琢磨し合える同世代の仲間に出会えたことは私の一生の宝物です。ホームステイは終わってしまいましたが、出会えた仲間との絆をこれからも大切にしようと思います。



私たちにたくさん教えていただいた寺田陽次郎さんの言葉で「一人じゃ生きていけない。でも、一人で生きていけるような大人にならにといけない。」という言葉があります。これは、周りの方々の支えがなければ生きていけないし、支えてもらった分、自分たちがしてもらったように支えなければならないということだと思います。私たちはこれから、この言葉を忘れずに、たくさんのことにチャレンジして、色々な経験を生かしていきたいです。

HABATAKIシンポジウム② OBOG活動報告

OBOGによる復興プロジェクト「HABATAKI」の活動報告。「次は自分達が誰かの為に」と ネパールや熊本で被災した同世代の為に立ち上がる姿に、胸が熱くなりました。

◆HABATAKIプロジェクト2016報告



「HABATAKIプロジェクト」は、Support Our Kidsの意思を引き継いで、「次は自分達が誰かの為に」という自分たちの想いを形にしていこうというプロジェクトです。今日は、HABATAKIが実施した「東北×ネパール復興の輪プロジェクト」「東北×熊本復興の輪プロジェクト」について報告をさせていただきます。

◆「東北×ネパール 復興の輪プロジェクト」について



ネパールの大震災のニュースを見て「次は私達の番だ!」と思いました。すぐに、SOKの仲間と募金やクラウドファンディングで支援の為のお金を集め、そのお金は、私たちが受けた支援と同じように、被災したネパールの子ども達を東北にホームステイで受け入れる費用に使わせて頂きました。今年の3月に3名の高校生を東北に招聘しました。



プロジェクトを実施して、たくさんの苦労もありましたが、実際にネパールの高校生を迎え、一緒に過ごしてみて、やってよかった、と思うと同時に、運営に携わったことで、自分達がホームステイさせて頂いた時に、これだけの苦労があったのだと改めて感じ、今更ですが、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

◆「東北×熊本 復興の輪プロジェクト」について

私は東日本大震災当時、被災地にいながら、何もできない自分にもどかしさを感じていました。しかし、Support Our Kidsの活動に出会い、「そんな気持ちは捨てて動かなきゃ」と思うようになりました。熊本地震のニュースを聞いた時「あの時の私と同じようにもどかしい気持ちを抱えている高校生がいるかもしれない」と思いました。そして、ネパールプロジェクトを成功させた先輩方の姿を追いかけて、5名の熊本の高校生を、いわき市に招聘し、共に故郷の復興について考える企画を計画しました。





ネパールプロジェクトは、中心メンバーの年齢も違えば、住まいもバラバラでした。その点、熊本プロジェクトは中心メンバーの3名が同じ学校の同じクラスということで、打ち合せなどスムーズにいくと思っていました。しかしながら関係性が近い分、衝突もたくさんあり、プロジェクトを進める難しさを感じました。しかし、たくさんの方の支えによりプロジェクトを成功させることが出来ました。



熊本の高校生とは、お互いの震災の体験を共有したり、復興したいわき市の 街並みを見学したり、復興に取り組む方々の話を一緒に聴いたりしました。 はじめは消極的だった熊本の高校生が、徐々に、自分の意見を積極的に言っ たり、能動的に行動してくれるようになったことがとっても嬉しかったです 。すべてのプログラムを終えた時に「次は、私たちが熊本に呼ぶけんね!」 と言われたことは生涯わすれません。

フォトレポート①

◆前日リハーサル

運営から全て生徒主体のリユニオン。本番前まで発表練習や写真展の準備等を行いました。







◆リユニオン実行委員主催のHABATAKI写真展 ~ここだけのSOK 3D写真展~







◆保護者会

今年度の活動報告と、保護者のネットワークづくりを目的に第5回保護者会を開催。帰国後の生徒の様子について共有する有意義な場となりました。



フォトレポート②

◆生徒による発表の様子



フォトレポート②

◆各国大使、支援者の皆様からのビデオメッセージ



前ボストン・レッドソックス監督 ボビー・バレンタイン 様



駐日カナダ大使館 参事官 パトリシア・オックウェル 様



SwissJoho.com 代表 田山貴子 様



チャコ瀬戸山 様



豪日交流基金 理事長 マレー・マクレーン様



駐日アイルランド大使 アン・バリントン 様



カナダ 日系文化会館 ジェームス・ヘロン 様



レーシングドライバー 寺田陽次郎 様



アイルランド外務省 シェーン・サージェント 様



歌手 ENYA 様



海洋冒険家 白石康次郎 様



駐日ポーランド大使館 臨時代理大使 ピョトル・ショスタック様



駐日ニュージーランド大使 スティーブン・ペイトン 様

◆支援者の皆様にも多数ご参加いただきました



◆第3部: OBOGインタビュー「私の夢」



ホームステイから帰国した直後、または当時のリユニオンで宣言 した夢を有言実行した2人のOBOGに登壇いただき、自分達の夢に ついて、インタビュー形式でお話を語っていただきました。



2013年のフランスステイで、Le Mans24を観戦させて頂いた。本気のレ -ス、また特別に入れて頂いたピットの中で一台の車を勝たせようと汗水 たらして働くエンジニアの姿に衝撃を覚えた。そして、私もエンジニアに なって、ここで日の丸を揚げたいと思いました。そして、その夢を、 Le Mans24で唯一日本車で優勝している、そしてこのプログラムを支援し て頂いているMAZDAに懸けました。来春からはMAZDAで働きますが、私 がそうだったように、人を勇気づけることのできるカッコイイ車をつくる ことが私の夢です。

私は、2012年のイギリスホームステイから帰ってきて、その年のリユニ オンで「将来は小学校の先生になりたい」と宣言しました。そして、こ の度、仙台市から教員採用試験の合格通知を頂き、来春から小学校の教 諭になることが内定しました。夢を口に出したことで、自分も頑張れた し、たくさんの方々に応援して頂けた。後輩の皆さんも、自分で自分に 約束をして頑張って頂きたい。



フォトレポート2

◆第4部: HABATAKI SPECIAL LIVE







OGの佐藤玲花さん(Canada2014)の提案により企画。趣旨に賛同した小野寺悠花さん(NZ2014)、須田日香理さん(NZ2015)も呼応。Support Our Kidsをテーマにしたオリジナルソング「架け橋」「君がいるから」、カバー曲「栄光の架け橋(ゆず)」を披露。素晴らしい楽曲と歌声に会場は感動と涙に包まれました。

◆懇親会の様子



◆支援者の皆様からご提供いただいた菓子、飲料類





☞伊藤園



メディア、運営体制

◆メディア

・<u>事前告知</u>

TOKYO FM&JFN(全国38局FM放送) 中西哲夫のクロノス「LOVE&HOPE」 ラジオ福島

河北新報

・事後告知

TOKYO FM&JFN (全国38局FM放送) 中西哲夫のクロノス「LOVE&HOPE」 TBC Nスタみやぎ「ニュース」



◆リユニオン・翔2016 実行委員

★澤田 悠希(USA2015)

☆渡邊 朱莉 (Canada2015)

青沼 航平 (Australia 2015)

大和田芽花(Australia2015)

櫻井 友香(USA2015)

鈴木 勇翔 (France2015)

鈴木 淑乃 (New Zealand2015)

須田日香理(New Zealand2015)

野口 貴道 (New Zealand2015)

和田 真伽 (France2015)

渡邉 暦 (Ireland2015)

★実行委員長 ☆副委員長

◆運営ボランティア 東北福祉大学けやきクラブの皆様

今年も、共催の東北福祉大学「けやきクラブ(大学生)」の皆さん(総勢22名)に、音響、照明、映像など、運営のご協力を頂きました。 けやきクラブの皆さん、ありがとうございました。



第5回 Support Our Kidsリユニオン〜翔・HABATAKI〜

時:2016年11月13日(日)13:00~16:00

場:東北福祉大学 けやきホール

催:Support Our Kids実行委員会

■共 催:東北福祉大学

◆発起人会

```
青島 俊徳 (タイムアウト in NZ 創設者)
赤井 勝 (花人)
赤木 弘喜
雨湯 伊(花人) かれ 3.0 mm (花人) かれ 3.0 mm (花ん) かれ 3.0 mm
                                                                                 548
康 (作詞家)
秀則 (株式会社フォーシーズ 代表取締役会長 兼 СЕО)
```

◆協力・後援団体

アトム通貨実行委員会仙台支部 イギリス大使館 オーストラリア大使館 カナダ大使館 サンマリノ共和国大使館 スイス大使館 株式会社アバールフィー アフリカの花屋 アメリカンクラブ アルバインツアーサービス株式会社 ANZCO FOODS JAPAN LTD アンダーズ東京 ニュージーランド大使館 フランス大使館 ベルゴーエー アンタース東京 e.i.l. イオン いしかかポディケアセンター 株式会社泉屋東京店 いそ路 Itsumo 株式会社伊藤園 伊藤八ム株式会社 防衛省 首相官邸 90 Plus Wine Club 株式会社ウジエスーパー ANZCCI ACO エールフランス 株式会社エイチ・ツー・オー 株式会社エイトコーポルーション Asia Matters 株式会社SPE 株式会社SPE 株式会社オールス OKANO i3 IMG JAPAN IMG JAPAN アイング株式会社 RHトラベラー株式会社 赤井勝装花の会 株式会社アカデミー 株式会社アカデミー 株式会社アコー あしなが育英会

, こ, ブル フ **アディダス・ジャバン** アド・ネットワークス株式会社

株式会社オフィスフォーディエイト 株式会社オクイスレン カシオ計算機株式会社 株式会社からログいウス カナルカフェ 金丸歯科クリニック カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 株式会社紀文食品 共立印刷株式会社 近畿日本鉄道株式会社 クラブオーストラリア 株式会社倉本製作所 グリーンコア株式会社 株式会社グローバス 株式会社経営戦略合同事務所 伊藤川は株式会社 井原水産株式会社の中等にUb JAPAN お店会社にODENホールディグス 株式会社・クラルマン 株式会社・クラルマン 株式会社・クラルマン 株式会社・クラルマン 株式会社・クラルマン 株式会社・フェノー「 株式会社・フェノー「 ・ AVZCCI りり方高事本な会社 ・ ファン・ボーランタ技術表社 ・ カード・クラス株式会社 ・ ファン・ボーランタ技術表社 ・ カード・クラス株式会社 ・ ファン・ボーランタ技術表社 ・ カード・クラス株式会社 ・ ファン・ボーランタ技術表社 ・ カード・クラス株式会社 ・ ファン・ボーランタ技術表社 ・ ファン・ボーランク技術表社 ・ ファン・ボーランタ技術表社 ・ ファン・ボーランク技術表社 ・ ファン・ボーランク技術表社 ・ ファン・ボーランク技術表社 ・ ファン・ボーランク技術表社 ・ ファン・ボーランク技術表社

株式会社シハコス 株式会社シムコス 七が浜国際村 1SMコングルティング株式会社 株式会社シャパンエフエムネットワーク シャポネード JANZ JANZ Ladies 春風会 等か企会 株式会社ダイクク タカケ株式会社 宝自動車交通株式会社 株式会社竹中庭園緑化 株式会社環建築設計事務所 学校法人干策工業大学 株式会社中央不動産鑑定所 nz-navi.com ニューヨーク日系人会

つきぢ田村 株式会社手塚プロダクション つき行田村 林式会社手塚7199ション TBS TBC東北放送 デルウ施空 ボルウ施空 ボルウ施空 ボルウ施空 ボルウ施空 ボルウルで デンフス様式会社 TOKYO MY 東京和公主部株式会社 東京大口本 株式会社東京トームホテル 株式会社東京とウサイト 東京カウエスポテル 東京・トンク自動車 株式会社東京とウサイト 東京カウエスポテル 東京・トンク自動車 株式会社中ノム・ロード おなの会社トノーム・ロード インスポート インス インスポート インスポー インスポート インスポート インスポート インスポート インスポート インスポート インスポート インスポート インスポート イ

ニューヨークメロン銀行 株式会社選野企画プロモーション Bancorp Wealth Management Limited NPOGA、日本タークリング・カーディニー 一般所団法人日本国の神文化派側会 経常トアの法人日本とのかり協会 NPO法人日本場所がなど協会 日本ミュラン・タイヤ株式会社 スプローバル株式会社 NEVER FORGET東北 ノーツ卵機株式会社 株式会社八万円 世が大力で大力である。 ビッグホリデー株式会社 ビッグルリアー株式会社 ビッグルリアールグラフ エアラル・ファンティンファインブレードシールクラフ エアラル・ファンデリー・ファイン オステカー・ファンデリー・ファイン オステカー・ファンデリー・ファイン オス会社フーラン・アイト 福岡町が株式会社 福岡町が株式会社 福岡町が株式会社 福田町が株式会社 福岡地所株式会社 電土などーやければ会社 株式会社フトッーロ 株式会社フラットシ 株式会社フリットシート 株式会社フリット や区E Sports Management 株式会社フレイン フロシードアセットマネジント 北海道日本カルムファイターズ

協が人配は特式会社 株式会社ポンプロ 株式会社ポンプロ 特別のUNIT ALBERT GRAMMAR SCHOOL 有限会社マックスペース&ステーション マツタ北立会社 株式会社マルトグループホールディングス マンタリン 水Iエタル 東京 ミズ 三変自二事株式会社 三変自二事株式会社 生変自出来式会社 生変自出来式会社 多数とはメッセージデザインセンター モサンピークメ日以大使館 島地、森下 森大製菓株式会社 株式会社が大地でよった。 新大製菓株式会社 株式会社が大地でよった。 「大利のロゴルAPAM 新大製菓株式会社 大利のロゴルAPAM 音片概念法律事務所 音本理算株式会社 ほけん設計株式会社 吉本興業株式会社 日本映画株式云社 読売巨人軍 読売新聞社 ライオン株式会社 LINE 株式会社ラ・ディッタ 公益財団法人ラボ国際交流センター ラ・ロシェル Rotary Club of Toronto – Forest Hill Wakiyaグループ 一般社団法人WAZA JAPAN 和田グループ

和田グループ ヒーローズエデュテイメント株式会社

ご支援・ご協力ありがとうございます